タイトル

11N8101099A 草野 みどり 情報工学専攻 ●●研究室 20XX 年 X 月

1 はじめに

進捗状況報告書は、2年間にわたる修士論文研究の進 捗が適切な状況にあるかどうかを半期ごとに自己点検 し、今後の研究推進に関する方針・計画を明確にするた めのものである.このため、進捗状況報告書には、これ までの研究調査のまとめ、課題の発見・特定の状況、課 題解決に向けた研究方針、これまでに実施した調査・実 験や得られた知見、さらに今後の研究計画を含むことが 一般的だが、指導教授の指示を優先して執筆すること.

修士 1 年前期に提出する進捗状況報告書のファイル名は"学籍番号_PR1.pdf"とする. たとえば、学籍番号が 11N8100099A の場合、報告書のファイル名は 11N8100099A_PR1.pdf となる. 修士 1 年後期の報告書のファイル名は"学籍番号_PR2.pdf"とし、修士 2 年前期の報告書のファイル名は"学籍番号_PR3.pdf"とする.

2 報告書の構成

進捗状況報告書は A4 タテ判 2 ページに 2 段組でまとめ, ひとつの PDF ファイルとし, 日本語または英語で記述すること. 冒頭に書くべき情報は以下のとおりである.

- 1. 表題(研究テーマを記述する."進捗状況報告"を 意味する用語は含めない.)
- 2. 所属研究室
- 3. 学籍番号および氏名

研究室名の一覧を以下に載せる.

アルゴリズム理論基礎研究室/アルゴリズム工学研究室/数値情報処理研究室/確率的構造研究室/知能・情報制御研究室/数理最適化研究室/情報通信工学研究室/空間情報技術研究室/離散アルゴリズム研究室/システム解析・可視化研究室/形状情報処理研究室

提出前に指導教授と十分に打ち合わせを行い,本文の 詳細な様式・構成は指導教授の指示に従うこと. 指導教 授や同じ研究室の学生だけでなく,情報工学専攻教員も

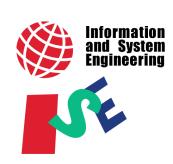


図1 情報工学科のロゴ

表1 表のタイトル

項目1	項目 2	項目3
データ 1	データ 2	データ 3
データ 1	データ 2	データ 3
データ 1	データ 2	データ 3

報告相手に想定し、論理的かつ明快な記述とすること.

3 図と表に関する注意

図・表には通し番号と見出し (caption) を付け、本文中で当該の図・表に言及する. また、単位や目盛を正確に記す. 例を図 1 と表 1 に示す. 図のタイトルは図の下に、表のタイトルは表の上に書く.

4 参考文献の書き方

一例として,和文の著書 [1],和文の論文誌 [2],英文の編書 [3],英文の論文誌 [4],国際会議 [5],修士論文 [6],電子雑誌 [7],Webページ [8]を,2ページの参考文献の節に載せる。参考文献には信頼性が高く,後世に残るものを載せるように注意せよ。

書くべき情報は以下のとおりである.

- 和文の著書: 著者, 書名, シリーズ名 (あれば), 発 行所, 都市, 年.
- 和文の論文誌: 著者, 題名, 誌名, 巻, 号, 頁, 年.
- 英文の編書: 編者, 書名, 発行所, 都市, 年.
- 英文の論文誌: 著者, 題名, 誌名, 巻, 号, 頁, 年.
- 国際会議: 著者, 題名, 予稿集名, 都市, コード等,

頁, 年.

- 修士論文: 著者, 題名, 機関名, 年.
- 電子雑誌: 著者,題名,誌名,巻,号,頁(オンライン),DOI,西暦年.
- Web ページ: 著者, Web ページの題名, Web サイトの名称(オンライン)(ただし, 著者と同じ場合は省略可), 入手先〈URL〉(参照日付).

英語の文献はすべて半角文字で書く.参考文献には本文で引用した文献のみ載せる.情報処理学会の論文誌の原稿執筆案内[8]も参考になる.

通し番号は、引用順または著者名のアルファベット順に付ける. 文献の引用のしかたは分野ごとに異なるので、自己流では書かず、当該分野の論文誌などを参考にすること.

参考文献

- [1] 末武国弘, 科学論文をどう書くか, 講談社ブルーバックス, 講談社, 東京, 1981.
- [2] 草野花子, 中大太郎, パラメトリック増幅器, 電子情報通信学会論文誌, vol. J62-B, no. 1, pp. 20-27, 1979.
- [3] M. G. F. Fuortes, ed., *Handbook of Sensory Physiology*, Springer-Verlag, Berlin, 1972.
- [4] W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, Diffusion of impurities during epitaxy, *Proc. IEEE*, vol. 52, no. 3, pp. 284–290, 1964.
- [5] L. J. Guibas and R. Sedgewick, A dichromatic framework for balanced trees, *Proc. 19th IEEE* Sympos. Found. Comput. Sci., Ann Arbor, pp. 8– 21, 1978.
- [6] 中大次郎,マルチメディアと数理工学,中央大学大学院理工学研究科情報工学専攻修士論文,1998.
- [7] K. Iwama, A. Kawachi, and S. Yamashita, Quantum biased oracles, *IPSJ Digital Courier*, vol. 1, pp. 461–469 (online), DOI: 10.2197/ipsjdc.1.461, 2005.
- [8] 情報処理学会,論文誌ジャーナル (IPSJ Journal) 原稿執筆案内,情報処理学会(オンライン),入手先 〈https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun_j_prms.html〉(参照2022-04-25).